

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【香川県】

1 実践テーマ	【Ⅲ、Ⅴ】
2 実施対象者	さぬき市立志度小学校 全校児童 547名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ア（「単元名 パラスポーツ（ブラインドゲーム）を創ろう」 総合的な学習の時間 : 5年） イ（「単元名 パラリンピアンに学ぼう ～あすチャレ！スクール～」 総合的な学習の時間 : 5・6年） ② 行事名 ア（車いすバスケットってすごい！ : 1～6年） イ（みんなで応援団 : 1～6年） ウ（ハートフルマラソン「みんなでつなごうバトンと心」 : 1～6年）
4 目標 (ねらい)	(1) パラスポーツの創造、体験を通して、スポーツに対する興味・関心の向上や、スポーツに多様に関わる態度の育成を図る。 (2) パラリンピックについて調べたり、パラリンピアンと交流したりすることを通して、多様性を尊重し、夢や目標に向かって努力する態度の育成を図る。
5 取組内容	①総合的な学習の時間「パラスポーツ（ブラインドゲーム）を創ろう」 ゴールボールを提示し、どのようなスポーツに使うボールか予想した。その後、グループで試行錯誤しながらルールを考え、ゴールボールに近いスポーツを創ることができた。   パラスポーツを創って楽しんだ後、実際のゲームを知り、ゲームの映像を見することで、学習を振り返る場面では、「まるで見えているようにボールを止めていてすごい。」「自分では思いつかなかったルールがあって、工夫が面白かった。」等、多様な感想が聞かれた。 ②総合的な学習の時間「パラリンピアンに学ぼう ～あすチャレ！スクール～」 パラリンピアンである永尾嘉章さんを招き、車椅子の体験を行った。講演からは、夢をもち諦めないで取り組むことの大切さについて学んだ。学習後には、折紙に自分の夢を書き、ハート型に折って持ち歩くことで、普段の生活に生かしている。    ③車椅子バスケットってすごい！ 県内の車椅子バスケットボールの選手を招き、車椅子バスケットボールの体験を行った。個人が活躍するための用具や競技の工夫、仲間とともに夢に向かって取り組むことの大切さや喜びについて学んだ。



④みんなで応援団

地域の高校生を講師として招き、具体的な応援方法として、エールの送り方やポンポンでの文字の作り方、そして友達を応援することの大切さを学んだ。



⑤ハートフルマラソン

全児童と全教職員でバトンをつなぎ、42.195km を走った。目標に向かって1人ひとりが全力で走り、友達の頑張りを応援した。その姿を保護者や地域の方に見ていただき、募金を行った。集まった募金は、ナイジェリアを支援するために、ユニセフに寄付した。



6 主な成果

5年生へのアンケート調査では、「パラスポーツについて興味がありますか」という問いに対して、事前では「はい・どちらかといえばはい」と答えた児童が20.7%であったが、事後では93.1%であった。一連の取組を通して、パラスポーツの楽しさ、アスリートのすごさや努力を実感し、パラスポーツへの興味が高まったと考えられる。

また、「オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意味や大切さに対する理解・かん心がありますか」という問いに対して、事前では「はい・どちらかといえばはい」と答えた児童が27.6%であったが、事後では89.7%であった。一連の取組を通して、具体的な競技や、用具やルール等の工夫、競技に携わる人の思いや願いを知り、理解が進んだと考えられる。

そして、「これからの人生において、しょうがい者もいっしょになって、せっきょくてきにスポーツに参加したいと思いますか」という問いに対して、事前では「はい・どちらかといえばはい」と答えた児童が31.0%であったが、事後では96.6%であった。自由記述には、「ルールや用具を工夫すれば一緒に楽しむことができる」「スポーツをするにはチームワークが一番大切、一緒に楽しみたい」「自分も障がいをもっている人も苦手なことがあるけど、成し遂げたいという気持ちが同じだから、一緒に頑張りたい」といった意見が見られた。様々な体験をしたり、実際に触れ合ったりすることで、理解が進んだと考えられる。

7 実践において工夫した点（事業の特色）

地域の人材と学校の環境を生かした。地域の高校とは以前から交流活動を実施していたが、取組に際して内容を見直した。教える内容や目的が明確化され、豊かな交流となった。また、学校の広い運動場を活用し、全校生が走り、応援できる環境を整えることで、取組を盛り上げることができた。

8 主な課題等

用具や講師の確保が難しい場合がある。用具として、ゴールボールやブラインドサッカーボールを購入したが、高額である。購入できない場合は、貸与を受けたり、似たものを作ったりするという方法もあるだろう。また、講師として、パラリンピアンやパラスポーツ関係者を招いたが、予算や相手方の都合で実現しづらいことも考えられる。2020 東京大会に向け、様々な団体が取り組みを進めているので、それを上手く活用する方法もあるだろう。

9 来年度以降の実施予定

ゴールボールやブラインドサッカーボール、関連書籍を活用して、探究的にパラスポーツを創造する学習を継続したい。本年度の取組を発展させ、クラスマッチと関連を図り、パラスポーツ大会を実施したい。